

処理場の汚泥サンプリング試験

2005年1月27日開始

(1) 作業目的、施工場所

処理場における沈殿槽からの初沈汚泥をサンプリングし、アンモニア臭気、汚泥量の低減を目的とした試験を行う。

(2) 使用量

施工条件に最も適した液状タイプのバイオリキッドと固型タイプのバイオコロニーを併用投入する。試験容器容量は、0.001m³であるため、バイオリキッド(30ミリリットル)、バイオコロニー(20グラム)を併用投入する。

(3) 調査

当社内にサンプリング資料を持ち帰り測定する。臭気に対しては、LED表示環境測定器/WPFEC-01を用いる。汚泥量については、目視とする。下記のとおり非常に良い結果をえた。

1) 臭気

下記の表のとおり、約10日目には、臭気が全く感じられなくなった。この状況は、ビデオにて測定器を用いて撮影している。

番号	日付	天気	平均気温	臭気
1	01月27日	雨	8	5
2	01月28日	晴	8	5
3	01月29日	曇	6	3
4	01月30日	晴	5	3
5	01月31日	晴	4	2
6	02月01日	雪	4	1
7	02月02日	雪	3	1

ゴムパッキンで密閉し、黒いカバーをかけた状態で試験を

平均気温は、アメダスのデータ(鹿児島)による

2) 汚泥量

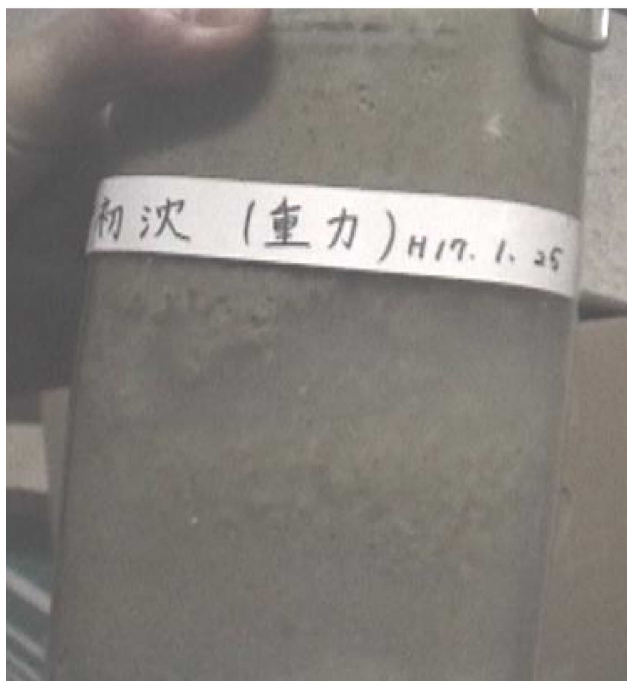
別添の写真のとおり、3日目には2割汚泥が減少し、10日目には約4割減少した。50日目には、約半分の汚泥が水に分解した。180日目には、80%~90%が水に分解した。



投入前



3日目



10日目(1)



10日目(2)



50日目(1)



50日目(2)



180日目